



# 各重点領域におけるCSV目標

重点領域	CSV目標	
	目標	2030年度目標値
すべての人の健康	多様なライフステージにおいて健康とエネルギーを生むヘルスサイエンス商品の伸長率の向上（2019年度比）	200%
	脂質栄養の知見を活かした健康課題の改善につながる商品の開発	
	最適な脂質の摂取に繋がる健康情報についての提供人数拡大（2021年度からの累計）	累計 1億人
おいしさ、美のある豊かな生活	食卓に「おいしさ」を提供し、豊かな生活に貢献するブランドへの磨き上げ	企業ブランド 認知率90%
	食での「おいしさ」や「美」を追求する商品創出	
	美を実現する商品の伸長率の向上（2019年度比）	200%
地球環境	Scope1,2におけるCO <sub>2</sub> 排出量削減(2016年度比)	50%
	Scope 3 におけるCO <sub>2</sub> 排出量削減（2020年度比）カテゴリ-1, 4から取組開始	25%
	プラスチック容器・包装の削減および資源循環の推進	
	植物資源を活用した、環境にポジティブインパクトを与える商品・サービスの開発	
食のバリューチェーンへの貢献	国内における食エネルギーの安定供給（国内の総エネルギーに占める割合）	6%以上
	グループのユーザーサポート件数増加率向上（2019年度比）	150%
信頼でつながるサプライチェーン	人権尊重を基盤とした事業活動の展開・深化	
	農園までのトレーサビリティ比率向上	パーム油 100%
	持続可能な大豆の調達推進	
	持続可能なカカオの調達推進	
	持続的かつ競争力ある物流体制の構築	輸送積載効率向上に向けたF-LINE共配函数比率拡大 トラックドライバー拘束時間削減（日清オйлオ単体の工場内）
人材マネジメント	組織能力の強化・開発	DX推進の基盤構築 グローバル人材の拡充
	「働きがい」を感じる従業員の割合拡大	80%
	従業員の多様性向上	女性管理職比率向上

# 【1】すべての人の健康

## ■ 人生100年時代を支える心身の健康に貢献します

当社グループは、長年植物油脂を研究し、その栄養としての価値と加工技術を高め続け、おいしい食品や安全で高品質な素材として提供することができます。ライフステージや健康状態にあった「おいしい食事」と「食生活、食習慣」の提案を通じ、生涯にわたり、活力のある健康的な生活に貢献します。

### 社会環境・社会課題

- 日本国内では、高齢化の進展に伴い低栄養・認知症患者等が増加し、医療費が増大する
- グローバルでは、過剰栄養による生活習慣病が増加する国と、乳幼児の栄養不足が深刻化する国が存在する
- 健康に関する情報の氾濫により消費者が混乱する

### 当社グループへの影響

- 病気を未然に防ぐため「食」の果たす役割が増大し、ビジネス機会が広がる
- 過剰栄養を防ぐため、油脂の摂取を抑制するようになる
- 情報過多により、商品の価値がお客さまに正しく伝わらない
- お客さまの共感が得られる、分かりやすい情報提供により、お客さまにとって最適な商品の選択が可能になる

### 課題解決に向けた具体的取組み

- お客さまの健康のために脂質栄養に関する商品・サービスの幅を広げ、多様な選択肢を分かりやすい情報とともに提供する
- 油脂の単位当たりのカロリーの高さを活用し、高齢者の栄養状態を改善する、少量でエネルギーを摂取できるおいしい製品を開発し、販売する
- 植物油脂に関する正しい知識を発信し続け、植物油脂のポジティブなイメージへの変換をさらに進める
- 健康状態や嗜好等のパーソナルデータを活用して生活者を理解し、パーソナルな健康課題（体質改善、体調のコントロール等）に対する脂質栄養の知見を獲得する
- お客さまの栄養の過不足や偏りを防ぎ、健康寿命の延伸に繋げるため、最適な量や種類の脂質を摂取できるよう食生活提案を行う

### 共有価値

- ▶ 脂質栄養の知見を軸とした商品・サービスの提供により、健康寿命の延伸に貢献する

### ■ CSV目標

- ▶ 多様なライフステージにおいて健康とエネルギーを生むヘルスサイエンス商品の伸長率向上：200%（2019年度比）
- ▶ 脂質栄養の知見を活かした健康課題の改善につながる商品の開発：パーソナルな健康課題の解決（体質の改善や体調のコントロール等）に関連するエビデンスの取得と商品開発
- ▶ 最適な脂質の摂取に繋がる健康情報についての提供人数拡大：累計 1億人（2021年度からの累計）



## 【2】 おいしさ、美のある豊かな生活

### ■「おいしさ」と「美」の追求を通じて、より豊かな生活の実現に貢献します

「おいしさ」と「美」は、個人の価値観を構成する大切な要素であり、この価値観を満たすことは、人々が幸せな生活を送ることにつながります。「おいしさ」と「美」の追求を通じて、人々のクオリティ・オブ・ライフ（QOL）を高め、社会と共有できる価値を創造することで、生活をより豊かにし続けます。

#### 社会環境・社会課題

- 日本においては、孤食の増加や調理時間の減少、嗜好の多様化等、生活者の食スタイルが変化する
- グローバルでは、中間所得層が増加する地域において嗜好品や化粧品の需要が増加する
- 新型コロナウイルス5類移行と物価高騰に伴う生活者の消費行動の変化により、食シーンが変化する
- 商品選択において、商品そのものの価値や機能だけでなく、ブランドの理念や社会的価値への共感が更に重要視されるようになる

#### 当社グループへの影響

- 家庭における油脂の代表的な使用方法である「揚げる」調理が減少する
- 家庭／個人によって、油脂の使用方法が多様化してくる
- グローバルでチョコレートや化粧品原料の需要が増加し、ビジネス機会へつながる
- ■ 食シーンが変化することで業態別の油脂需要の変動が起きる
- ■ 社会・環境課題解決やナチュラルティへのこだわりなど、生活者の共感を得る商品を提供することで、新たな顧客を獲得する

■ リスク □ 機会

#### 課題解決に向けた具体的取組み

- 油脂を活用した素材を「おいしく」する調理法や、豊かな食卓、集う機会を提案し、豊かさを感じる食シーンを広げる
- 幅広い食品に活用されている油脂の特性を生かした、油脂ならではの他の素材との共創による味づくりを行い、新しい価値を創出する
- ナチュラルな製法やオーガニック素材を用いた食品や、安全で高品質、機能的な化粧品用の油剤などの開発を進める
- チョコレートや大豆などの素材が持つおいしさを最大限に引き出し、お客さまが求める味づくりを行う

#### 共有価値

- 「おいしさ」と「美」をもたらす油脂を商品・サービスとして提供し、人々の「生活の質」（QOL）の向上に貢献する

#### ■ CSV目標

- 食卓に「おいしさ」を提供し、豊かな生活に貢献するブランドの磨き上げ  
企業ブランド認知率：90%
- 食での「おいしさ」や「美」を追求する商品の創出：  
食用油を基軸とした新たなカテゴリー創出による食の豊かさへの更なる貢献
- 美を実現する商品の伸長率の向上：  
200%（2019年度比）

# 【3】地球環境

## ■ 地球環境を次世代に引き継ぐために未来を見据えて挑戦します

植物資源を事業のベースとする当社グループにとって、地球環境や資源の保護は事業の持続性そのものです。次世代のため、脱炭素社会、循環型社会の実現を目指し、未来を見据えて事業活動での環境負荷を最小限にする取り組みを進めるとともに、環境課題の解決に資するビジネス領域の構築を進めます。

### 社会環境・社会課題

- 平均気温上昇2℃未満への抑制に向け、大半の国が2050年までにカーボンニュートラルを実現する事を宣言している。
- 干ばつや風水害等、気候変動による自然災害が増加する
- 気候変動によるリスクと機会を把握し、戦略的に対応することが必須となる
- 森林破壊・火災等による生物多様性の喪失、マイクロプラスチックによる海洋生態系や人体に与える影響が顕在化する

### 当社グループへの影響

- 気候変動により、原材料の安定調達およびコスト上昇リスクが発生する。また、エネルギーコストに加え、炭素税などの新たなコスト上昇要因が発生する
- 自然災害の増加・甚大化により、生産設備の損壊等、操業の継続が脅かされる
- 生物多様性に関する法規制や行動指針への対応が必要となる
- 気候変動・生物多様性等、環境課題への積極的な対応と適切な情報開示により企業価値が向上する
- 植物資源の活用により、新たな環境課題解決型のビジネスチャンスを創出できる

### 課題解決に向けた具体的取組み

- 水素燃焼等の新技術導入に積極的に取組み、サプライチェーン全体で温室効果ガスの削減に向けた施策を進める
- TCFDに賛同し、気候変動に対応したリスクと機会の分析を進める
- TNFDに賛同し、生物多様性に対応したリスクと機会の分析を進める
- 生産工程における廃棄物の再資源化を推進し、ゼロエミッションを継続するとともに使用する水の削減を進める
- 容器包材におけるプラスチック使用量の削減と、環境対応素材の採用、リサイクルの仕組みの整備を進める
- 堺工場で先行するサステナビリティセンター化の取組みをグループ全体に展開する
- インターナルカーボンプライシングの導入など環境への取組みに投資しやすい仕組みを整備する
- 工業用途での鉱物油から植物油への代替利用の促進やバイオマスの新しい活用法の検討など、環境課題解決型ビジネスの構築を進める
- 生物多様性の維持・回復に向けた支援活動を実施する

### 共有価値

- 温室効果ガスの排出を削減するとともに、気候変動による影響を低減する
- 資源は有限であるとの認識のもと、循環型社会を実現する
- 生物多様性保全活動により、次世代に植物資源、遺伝資源等を継承する
- 環境負荷の少ない容器・包装を開発し続ける
- 環境課題解決型ビジネスにより、商品・サービスを通じて社会に貢献する

### ■ CSV目標

- Scope1,2におけるCO2排出量削減：50%（2016年度比）
- Scope3におけるCO2排出量削減：25%（2020年度比、カテゴリー1, 4から取組開始）  
プラスチック容器・包装の削減および資源循環の推進
- 植物資源を活用した、環境にポジティブインパクトを与える商品・サービスの開発



## 【4】食のバリューチェーンへの貢献

### ■ お客さまと共に技術・商品・サービスを磨き、お客さまが創造する価値を高めます

世界の油脂需要は増加しており、社会・環境の変化とともに使われ方も多様化しています。当社グループは植物資源の価値を技術でさらに高め、お客さまとの共創を通じ、社会が求めるソリューションを実現します。安心を生む製品・サービスの安定した提供と、価値の創造を通じて、食のバリューチェーンに貢献します。

#### 社会環境・社会課題

- TPPなどの貿易協定の進展や食資源確保における国際競争の激化などにより、国内搾油事業の国際競争力が低下する
- 消費者および企業の新たな製品・価値への欲求が高まる
- 日本では生産年齢人口の減少に伴い、人手不足が顕在化する
- 世界的な食糧不足、食品ロス問題への取り組みが活発化する
- 人口や中間所得層が増加する地域・諸国における食糧供給を支える産業が発展する

#### 当社グループへの影響

- 国内畜産業の縮小と輸入ミールへの対抗により搾油事業の収益力が低下する
- 人手不足や食品ロス問題を中心に油脂に求められる機能・役割が高度化する
- 社会課題解決に資する商品・サービスの提供により、ビジネス機会拡大へつながる
- 新興国においては、食品産業が発展し、ビジネス機会へとつなげることができる
- 食品の代替生産技術の進展により食糧生産のスキームの選択肢が広がる

#### 課題解決に向けた具体的取組み

- 搾油事業の持続可能性確保に向け、アライアンス戦略等を推進する
- 創発的な営業プロセスを実践し、常に変化していくお客さまの課題解決に向けた提案と、継続的な開発を強化する
- アプリケーション開発により、油脂と他の素材を組み合わせる新しい食品や加工用の原材料などを開発する
- 食品のおいしさ持続と賞味期限延長について、技術開発を深化する
- 「新たな食糧生産スキームの構築」・「新たな油糧資源、機能素材の獲得」等を目指し、代替脂質生産に取り組む
- 将来の食糧不足解消に貢献すると期待され、市場が拡大し続ける植物による肉や乳の代替など、食の新たな潮流に対応する

#### 共有価値

- 油脂とミールを安定的に供給し、国内食品産業および畜産業の発展に貢献する
- 油脂を中心に植物資源の新たな機能や用途をお客様とつくりあげ、ソリューションを広げる
- 油脂の機能を最大限に活用し、食べられる食品が捨てられることを防ぐ
- 植物資源を新しい消費志向や食糧の安定供給を満たすために活用する

#### ■ CSV目標

- 国内における食エネルギーの安定供給：  
（国内の総エネルギーに占める割合）：6%以上
- ユーザーサポート機能の発揮によるソリューションの提供  
ユーザーサポート件数増加率向上：150%  
（2019年度比）



# 【5】信頼でつながるサプライチェーン

## ■ 誠実さを大切に、強く、しなやかなサプライチェーンを構築します

日本の食を支える、重要な素材・エネルギーの供給者として、持続可能な方法で生産された原料を用い、お客さまにお届けするまでの品質に常に真摯に向き合うことで、将来にわたって安定したサプライチェーンの構築に努めます。また、安全な製品の供給と透明性が高いコミュニケーションを通じてお客さま・社会との信頼関係を構築します。

### 社会環境・社会課題

- 世界的な人口増加等により、水・食糧不足が深刻化する
- 原料生産地域における人権問題や環境問題が深刻化する
- 物流業界の人手不足を発端とした諸課題への政府の物流政策の見直しと法制化が進展する
- 品質への要求水準が高まる

### 当社グループへの影響

- 世界的な穀物の需要増により、原材料のコスト上昇や安定調達に支障が出る
- 原料産地の人権問題／環境問題の深刻化により、産地への関与が必須となる。また、持続可能性に欠けた原料を扱うことにより、レピュテーションリスクが高まる
- 物流業界が抱える諸問題の深刻化により、物流コストが上昇する。また、これまで通りの物流体制の維持が困難となる
- 安全性に対する要求水準の高まりにより管理すべき品質項目が増え、高度な分析技術が求められる

### 課題解決に向けた具体的取組み

- 人権に関する教育を推進し、事業活動全体で人権を尊重していく姿勢を追求する
- パーム油調達において、サプライヤーとの対話を含めた取組みを進め、持続可能性を向上させる
- 森林及び海洋生態系に配慮した原材料を調達する
- 持続可能な調達の取組みを大豆・カカオ等にも拡大する
- 菜種、オリーブ、アマニなどに関する生産地への関与を強め、安定調達に向け関係強化を続ける
- 国内の原料生産地と一体となって、地域産業を振興する
- 人手不足や厳しい労働環境などの課題に対し自社や業界でのアライアンス活動により持続可能な物流体制を構築する
- 微量成分のコントロールなど、競争力につながる高品質な製品を供給できる独自技術を開発する

### 共有価値

- 環境と人権に配慮した調達を実施する
- 世界的に油脂需要が拡大するなかで、環境と人権に配慮し、ネットワークを活用した持続可能で安定的な調達を実施する
- 社会全体のインフラである物流の持続可能性を高める
- 油脂メーカーの責任として、安全で安心な製品をお届けする

### ■ CSV目標

- 人権尊重を基盤とした事業活動の展開・深化
- 農園までのトレーサビリティ比率向上：  
パーム油 100%
- 持続可能な大豆の調達推進
- 持続可能なカカオの調達推進
- 持続的かつ競争力ある物流体制の構築
  - ①輸送積載効率向上に向けたF-LINE  
共配函数比率拡大：30%
  - ②トラックドライバーの拘束時間削減：  
平均30分以内  
※日清オイリオ単体の工場内



# 【6】 人材マネジメント

## ■ 多様な人材の働きがい高め、組織能力を向上し、イノベーションを起こします

当社グループの持続的な成長には、多様な視点に基づく創造性は欠かせません。ダイバーシティの実現と、常に社員の健康増進や教育、幅広い経験のための機会の創出に努め、社員一人ひとりの働きがい高めることで、組織能力を高め、バリューチェーンのあらゆる場面においてイノベーションを起こします。

### 社会環境・社会課題

- 日本では生産年齢人口減少に伴う人手不足が顕在化、一方、女性、高齢者、外国人の社会進出は進展する
- AI、IoTの進化に伴うデジタルテクノロジーが発達する

### 当社グループへの影響

- 人材が、質・量の両面から獲得できず、当社グループの成長が妨げられたり、操業の継続が脅かされる
- 社員の価値観が多様化する中で、十分に人権が配慮されないことによりレピュテーションリスクが高まる
- デジタルテクノロジーの活用により、業務生産性の向上が可能になるとともに、新たなビジネスチャンスを創出できる
- 多様な人材の活躍により、イノベーションを創出できる

### 課題解決に向けた具体的取組み

- 当社グループの価値創造に必要な多様な人材を受け入れる環境を整え、社員同士の発展的なコミュニケーションで、イノベーションを起こす土壌を作る
- 管理職の多様性を強化し、意思決定において幅広い視点を入れる。また、そのための計画的な教育を実施する
- ビジョンで目指す姿に到達するため、脂質栄養・環境・情報についてグループ全体でリテラシーの底上げを図る
- 経営層と社員間のコミュニケーション強化、スマートワークの推進等により「働きやすさ」と「働きがい」を向上し、エンゲージメントを高める
- 人権に関する教育を推進し、事業活動全体で人権を尊重していく姿勢を追求する
- ビジョンやバリューズの浸透により、当社グループの進むべき方向性や価値観を明らかにし、グループとしての一体感を高める
- ビジョン2030を実現するため、事業戦略・運営についてのガバナンス体制を強化する
- 積極的な人的資本投資を進め、特にグローバルビジネスを推進する人材については重点的な教育投資を実施する

### 共有価値

- 多様な人材がその能力を十分に発揮できる職場環境、制度を提供し、社員の働きがい向上させる
- 全ての従業員の人権が尊重され、グループの一員として活躍できる企業文化を作る
- 全てのステークホルダーから信頼される企業グループであり続けるため、実効性のあるグループ経営体制を整備する

### ■ CSV目標

- 従業員の「働きがい」を感じる人の割合拡大：80%
- 組織能力の強化・開発
  - ①DX推進の基盤構築
  - ②グローバル人材の拡充
- 従業員の多様性向上  
女性管理職比率向上：20%

